



明日へはばたけあおもりっ子
キャリア教育推進事業

西北地区キャリア教育推 進連絡協議会

～板柳中学校の実践を中心に～

▶ 研究主題

見つめよう自分を つながろう仲間と 探そう夢や希望を ～校種間連携によるキャリア教育の推進～

中学校を要とした校種間連携の基本構造

小学校

進路の探索・選択にか
かる基盤形成の時期

中学校

現実的探索と暫定
的選択の時期

高等学校

現実的探索・試行と社
会的移行準備の時期

継続性や発展性を考えて、

共同研究・共同実践・相互交流・情報交換

3年間の年次計画

年度	内容
平成23年度	地区としての構想策定，各校内の条件整備，推進協議会の立ち上げ，試行的実践，成果や課題の確認，経過発表
平成24年度	地域の特性を生かしたプログラムづくり，各校での実践，校種間連携の試行，成果や課題の確認，中間発表
平成25年度	校種間連携によるキャリア教育推進体制の確立，継続的実践，実践報告会（3年間のまとめ）

小中高連携の研究組織

推進部

- ・事業の積極的推進 【校長】

連絡調整部

- ・連絡・調整, キャリア教育全体計画やキャリアプログラムの策定, 保護者や地域に対する啓発, 児童生徒の実態調査 【教頭】

学習研究部

- ・キャリア教育の視点を取り入れた教科・領域の授業実践 【研修主任等】

体験活動部

- ・キャリア教育の視点を取り入れた体験活動の企画・実践 【総合, 特別活動主任等】

実践を通して目指すもの

「支え合う仲間を大切に
し、互いに切磋琢磨し
ながら、自己の可能性
に挑戦する生徒の育成」

キャリア教育によって目指す生徒像

- 自らの生き方を考え、将来の夢を持つことで、向上心や自ら学ぶ意欲を高め、自己実現にむけた真剣な学びができる生徒
- 集団の成長と発展を願い、そのために切磋琢磨することに価値と喜びを感じている生徒
- 将来についての見通しをもち、困難な場面においても柔軟に対応できる能力を育成して、目標を持って努力し続ける生徒

キャリア教育の視点を取り入れた 教科・領域の授業づくり

「授業の目的をより良く達成するためにキャリア教育がある。」

キャリア教育の視点を取り入れる

育成したい能力を
はぐくむ

・基礎的汎用的能力

学

日常や社会，将来や
生き方へのつながり

・どんな職業に活用
・どう役に立つ

学

教科・領域のねらい

・学習指導要領
・児童・生徒の実態

教

一人一人の社会的
職業的自立に向け、
必要な基盤となる
能力態度を育てる
ことを通して、
キャリア発達を促
す教育

キャリア教育の視点を取り入れる

児童生徒の日常や
地域社会，将来や生き方

キャリア教育で育成する能力
(基礎的汎用的能力)

学習内容から 「つなげる」

- ・ゲストティーチャーの活用
- ・体験活動との関連
- ・日常や職業との関連

学習方法から 「はぐくむ」

- ・グループでの話し合い活動
(人間関係形成・社会形成能力)
- ・観察，実験，比較検討，考察
(課題対応能力)
- ・自己評価と目標の再設定
(自己理解・自己管理能力)

・何を学ばせるのか
・どう活用するのか

・何のために学ばせるのか

板柳中学校

研究グループ

文系教科 グループ



理系教科 グループ



道徳 グループ



特別活動 グループ



・グループ長を中心に，情報交換や実践研究，学習指導要領との関連表の見直し，資料の蓄積，指導案検討等を重ねていく。

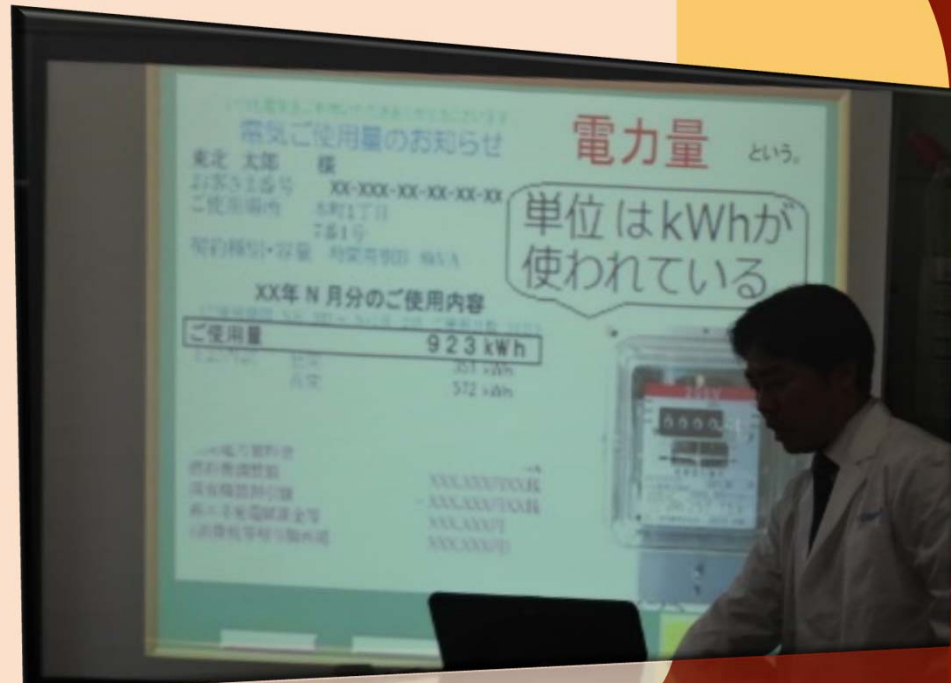
授業実践① 社会科

- 板柳町のフィールドワークを通して、自分たちのふるさとの課題や魅力に気付かせる。また、ゲストティーチャーの話を聞いたり、課題への対策を考えさせ、社会参画の態度を育む（課題対応能力）（社会「身近な地域の調査～板柳町の将来像を考えよう～」）



授業実践② 理科

● 日常使っている電気を電力量を用いて計算することにより，日常生活との関連を図ると共に，これからの自分の生活を見直すことにつながる。（理科「電力量を理解しよう」）



授業実践③ 道徳

●2学期になって、**将来の夢がはっきりとしない生徒が半数に増加した現状から、資料や保護者の方からのメッセージを読ませることにより、自信を持たせるとともに、内容項目1-(5)「向上心・個性の伸長」を図る。**（道徳「人生の未来シート」）



授業実践④ 学級活動

●三者面談を1か月後に控えて、事前に作成した自己の進路プランとA子の面談例を比較し、単なる高校選択でなく、この1か月間で何に取り組んで行くかを考えさせる。「キャリアプランニング能力の育成」（学級活動「ターニングポイント～15の決断～」最後の三者面談までにやるべきことは何か）



授業実践⑤ 社会科

● 模擬裁判を体験したり，検察官(ゲストティーチャー)の話を通して，将来，社会の一員として司法に参加する態度を育む。（社会「模擬裁判をやってみよう」）



授業実践⑥ 美術科

●町内商店の包装紙をデザインする。プロのデザイナー（ゲストティーチャー）にもアドバイスをもらい，完成品を実際にお店で使ってもらう（美術「包装紙デザイン」）



成果

成 果 1

●キャリア教育の視点を生かした授業において、どのようにキャリア教育の視点を取り入れていくか、共通理解が図られた。

●キャリア教育プログラムを授業等と連動させたことで、日常的にキャリア教育の視点を意識して教育活動を行おうとする指導する側の意識の向上が見られた。

成果

成 果 2

- キャリア教育全体計画や各種年間指導計画などの見直しが図られた。
- 授業の中で，児童生徒の将来や生き方，職業，社会とのつながりなどにふれ，子どもたちがそれを意識する場面が増えてきた。
- 教科・領域の評価だけでなく，「学ぶ意義への理解」や「学ぶ意欲の向上」の視点を評価に持つようになった。

課題

課題1

●キャリア教育の評価の方法について、アンケート調査や観察、感想文や資料、ポートフォリオなど、データの蓄積、分析など、有効な方法を研究していくとともに、共通理解を図ることが必要である。

●キャリア教育の視点を取り入れていく際に、短絡的に基礎的汎用的能力に結びつけることがないよう、ねらいや方法をじっくりと考える必要がある。（例：話し合い活動＝人間関係形成・社会形成能力）

●各教科や領域のねらいをさらに明確にするとともに、授業のねらいをより良くするために「キャリア教育の視点」からのねらいを1つしぼって設定する。

課題

課題2

●キャリア教育の全体計画や、各教科等の年間指導計画と生徒の実態を合わせて考えながら、継続的な見直しが必要である。

●小中高の発達段階を考え、系統的なキャリア教育の視点を生かした授業づくりを連携して行う必要がある。

●家庭や地域社会、企業等と連携して、キャリア教育の推進が図れるよう努力する。

キャリア教育の視点を取り入れた 行事や体験活動の取組



行事や体験活動を一過性のイベントで
終わらせない…

キャリア教育を効果的に展開する

そのために・・・。

体験活動での学びを、各教科等の学習や学校生活と結びつけ、ねらいとする効果を高める。

体験活動を通して、どんなことをねらうのか、より具体化・焦点化する。



ねらいの達成に迫る事後指導

●事後の活動と指導

気づきや学びの深さや浅さについて指導する。

事後指導が充実するために、事前指導を工夫することが大切である。

体験活動の振り返りの重視

体系的・系統的にキャリア教育を実践するために…。

全体計画を見直し、方向性を
再確認する。



「板柳プラン」の作成

「基礎的・汎用的能力」を基本に踏まえつつ、生徒に育みたい資質や能力の概念及びそのための場面や手だてを具体化する。



H25キャリア教育プログラム（板柳中プラン）			
【人間関係形成・社会形成能力】 かかわる力・つながる力			
能力	視点	概念・キーワード「笑顔で挨拶や返事ができる生徒」「思いやりを持ち、進んで協力できる生徒」	
人間関係形成・社会形成能力	挨拶	●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。 <言語能力・コミュニケーション能力>	

協力	●集団の一員としての役割を理解し果たすことができる。 ●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。 ●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。 ●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。	●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。 ●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。 ●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。 ●適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事ができる。
＜活動場面・手立て＞	・学活「体育大会に向けて」 ・清掃や班の活動	・学活「体育大会に向けて」 ・ボランティア活動

【自己理解・自己管理能力】 見つめる力・高める力				
能力	視点	概念・キーワード「自己を磨く生徒」		
自己理解・自己管理能力	肯定	●自分の個性を自覚し、良さを伸ばすことができる。 <自己理解・自己肯定・有用感>		
	選択	●興味関心を生かし、自分で活動を選択できる。 <自己肯定感・主体的活動・自己啓発>		
	自律	●自分の意思で決めたことについて、責任をもつ。 <自己管理・自己責任・自律心>		
学年		1年	2年	3年
自己理解・自己管理能力	肯定	●自分の持ち味や良さを肯定的に受け止めることができる。 ●自分の良さや個性が分かる。 ＜活動場面・手立て＞ ・学活「自分を知る」 ・道徳1-（5）自己理解・個性の伸長	●自分の持ち味や良さを伸ばすことができる。 ＜活動場面・手立て＞ ・学活「自分の適性・能力の理解」 ・道徳1-（5）自己理解・個性の伸長	●集団における自己の存在感を理解できる。 ＜活動場面・手立て＞ ・学活「自分の良さを知る」 ・道徳1-（5）自己理解・個性の伸長
	選択	●自分の能力や興味・関心等を理解することができる。 ●様々な情報と自分の適性を比較検討することができる。	●自分の能力や良さを伸ばすことができる。 ●様々な情報と自分の適性を比較検討することができる。	●自分の適性と照らし合わせながら、活動を選択できる。

「体験活動」におけるキャリア教育の取組①

中学生によるゲスト講話



「体験活動」におけるキャリア教育の取組②

学校行事との関連



体育大会

平成25年度 板柳中学校体育大会実施要項

板柳中学校特別活動部

1. 目的

- (1) 仲間と団結・協力して積極的に活動することにより、喜びや感動を味わう。
- (2) 集団行動を通して、規律ある行動の育成を図るとともに、気力・体力の向上に努める。
- (3) 学校と保護者・地域のコミュニケーションを深めるとともに、相互の連携を高める。

特別活動部では、この目的をキャリア教育の視点から具現化するために、次の項目を設定しました。

体育大会を通して身につけてほしい力	道徳目標	キャリア教育の能力領域
①自分の役割を認識し、競技や応援、係の仕事等に積極的に取り組む。	1- (6)	自己理解・自己管理能力
②活動計画を立て、随時振り返りをして次の活動に生かしながら進める。	1- (2)	キャリアプランニング能力
③活動を通し、他者と関わり合いながら、仲間のよさや自分らしさを再発見する。また、仲間と協力して活動に取り組む。	2- (2) 2- (3) 4- (2)	人間関係形成・社会形成能力

* 太字が今年度の重点項目

「体験活動」におけるキャリア教育の取組③

修学旅行

「東京板柳会の先輩を訪問」



修学旅行

「夜間学級訪問」



「体験活動」におけるキャリア教育の取組④

職場体験学習



この他に

「挨拶強化週間」⑤

町内の6校で、それぞれ趣向をこらしながら、挨拶の強化が図られた。



第1回「挨拶強化週間」のお知らせ

体験活動部

今年度もキャリア教育の「小・中・高連携」の取り組みの一環として、板柳町の小学校、中学校、高等学校において「挨拶強化週間」を実施します。

【実施期間：平成25年6月24日(月)～6月28日(金)まで】

- 朝の「おはようございます！」
- 帰りの「さようなら！」
- 校内ですれ違った時の「お疲れさまです！」「こんにちは！」
- 授業の始めと終わりの挨拶 など

元気に気持ちのよい挨拶を心掛けましょう。
挨拶の相手は、『来校者、先生方、先輩、後輩、同級生』と、さまざまですが、ぜひ自分から進んでみましょう。今までしていた挨拶をちょっと意識してみるだけでいいのです。小学生、中学生、高校生が一緒になって、板柳を元気な挨拶が飛び交う町にしていきたいと思います。

板柳は元気な
挨拶が飛び交う町



「ゴミ拾いボランティア活動」⑥



高校生や中学生が、
小学生をリードして
のゴミ拾い活動



「赤い羽根共同募金活動」⑦



町の福祉活動のために、小中高
合同で募金を呼びかけた。



「小学校6年生を対象とした学校説明会」⑧



生徒会役員による中学校生活の説明



中学校の授業体験



成 果①

- 教科・領域の授業と体験活動と結びつけ、事前事後指導の充実を図ったことは、子どもたちの学びを深化させ、次の授業への関連づけや、横断的な学習を展開することに役立つとともに、年間指導計画の見直しにもつながった。
- 体験活動や学校行事のねらいを、キャリア教育の視点から具体化、焦点化したことによって、活動場面や手だて等も明確化され、意欲的な取り組みが展開されるようになった。

成 果②

- 子どもたちが異年齢交流の体験活動を通して、発達段階に即した課題を解決しながら、豊かな心と社会性を育むことができた。また、集団の一員としての自主性や協調性が育まれた。
- 同じ期間に、あるいは同じ場所で、小中高生が一斉に活動することで、協働意識や挨拶に対する意識の高まりが見られた。
- 地域に根ざした活動をすることで、自分たちの暮らす町への理解と人々との交流が図られ、故郷を振り返るきっかけになった。

課 題

- 校種間連携による体験活動を展開するにあたっては、年度当初に予定した実施回数を確実に行えるよう、授業時数や日課表、及び行事の調整を検討するなど、連携を密にして計画的に進めていく必要がある。
- より系統性のある質の高い実践を展開していくためには、年度ごとに取組内容や実施時期等の見直しを継続的に行っていく必要がある。
- 小中高連携の活動状況について広報活動を行い、地域の教育力との円滑な連携に努め、地域を愛する生徒を育成していくことが求められている。

まとめとして

「キャリア教育」とは教育改革の理念であり方針

**学習内容と「生きること」や「働くこと」を
学校教育全体でつなぐ学校の意識改革**



「キャリア教育」とは教育改革の理念であり方針

**小中高校の学習を継続性や発展性を重視してつ
なぐ、教員の意識改革**



「キャリア教育」とは教育改革の理念であり方針

**「社会のための教育」
「教育のための社会」**



ご清聴ありがとうございました！

